

畜産みやぎ

題 字
宮城県知事 村 井 嘉 浩
発 行 所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号 観 宮城県畜産協会 電話 022-298-8473
編 集 発 行人
木 村 春 雄
印 刷 所
(株)東北プリント



「まきばのがっこうオープン」モーランド本吉 平成21年4月17日

も く じ

C O N T E N T S

平成20年度生乳需給状況及び 平成21年度計画生産について…………… 2-3	第45回宮城県同志会ホルスタイン共進会 開催のお知らせ…………… 9
平成20年度家畜共済事業実績について…………… 4-5	〈畜試便り〉新基幹種雄牛「勝利波」について…………… 10
平成20年度みやぎ総合家畜市場の現状と今後の見通し… 6	〈衛生便り〉アカバネ病の発生状況と予防対策…………… 11
平成21年度肥育牛経営緊急支援強化事業について…………… 7	〈農業大学校生の抱負〉宮城県農業大学校に入学して…………… 11
畜産物の消費拡大運動と地産地消県民運動…………… 8	〈New face〉…………… 12
平成21年度宮城県総合畜産共進会開催のお知らせ…………… 9	

みやぎの
畜産情報
発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.go.jp>
Eメール info@mygchiku.or.jp



古紙パルプ配合率 70%の再生紙と、植物性大豆油インキを使用しています。

平成20年度生乳需給状況及び平成21年度計画生産について

東北生乳販売農業協同組合連合会宮城支所
みやぎの酪農農業協同組合

平成20年度は、乳製品需要を見込んで17年度以来3年ぶりに「増産型」の計画生産が実施され、一方では乳価が年度内に再値上げされました。これは昭和54年以来33年ぶりとなります。

1. 生乳需給状況

(1) 全 国

平成20年度の全国の総受託乳量は、7,625,936トンとなり前年対比で▲0.9%減となり、18年度から3年連続の減少となりなした。地区別には、北海道が、前年対比で+2.1%増加で全国に占める生産受託実績シェアは49.7%となり、都府県が▲3.7%減少し依然として回復基調は見られません。

(2) 東 北

東北の総受託乳量は、646,750トンとなり前年対比で▲4.5%減少し、昨年2月を閏年修正すると36ヶ月前年を下回ったこととなります。県別では各県とも前年を大きく下回り、宮城、秋田県以外の4県は約5%又はそれを超える減少となりました。また、生乳計画生産の出荷目標数量646,877トンに対しては▲127トンの未達となりました。

(3) 用途別販売実績 (東北)

用途別販売実績は、飲用牛乳向けが19年度に引き続き、他飲料との競合等により、飲用牛乳等の消費は伸び悩み、対前年比で▲3.8%減少し、16年8月以降56ヶ月連続で前年割れとなりました。はっ酵乳等向けは▲3.7%と減少しましたが、直近の3月は+6.2%増加しており今後の動向に期待したい。特定乳製品向けは▲10.6%と2ヶケタの減少となり、その他、生クリーム向け及びチーズ向けは、それぞれ+1.0%、▲5.4%となりました。

(4) 宮城県

本県の総受託販売乳量は、142,124トンとなり前年対比で▲2.7%減少し、その減少量は1日当たりの乳量に換算すると約9.7トンになります。また、生乳計画生産の目標数量144,702トンに対しては▲2,577トンの未達となり、3団体とも計画生産目標数量を下回りました。

2. 生乳計画生産

中央酪農会議は、理事会において平成21年度生乳計画生産目標数量を全国合計で7,758,000トンと設定するとともに、指定団体への配分については、20年度実績に対して北海道は103%、都府県は100%を上限数量とすることで決定されました。

21年度の需給見通しでは特定乳製品需要・期末在庫量、さらには3月からの乳価再値上げに伴う、末端価格の引き上げがあり牛乳消費量など不透明感が拭えない需給要因があるため、脱脂粉乳ベース需要量とバターベース需要量の中央値を基本にインサイダー率、チーズ向け計画数量を踏まえ設定され、20年度受託実績7,625,936トンに対し1.7%増になり、指定団体からの正式な配分は5月末になる見通しです。

(販売課 菅原 久義)

平成20年度全国受託乳量

(単位: トン、%)

地区名	12月		1月		2月		3月		20年度計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
北海道	316,980	102.1	322,773	101.8	292,321	98.0	323,967	101.2	3,790,601	102.1
都府県	317,407	96.3	325,547	96.7	301,524	94.3	339,708	97.2	3,835,336	96.3
全国	634,387	99.1	648,319	99.2	593,845	96.1	663,676	99.1	7,625,936	99.1

平成20年度東北生乳受託・用途別販売実績

(単位: kg、%)

県	12月		1月		2月		3月		4~3月計	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比		
青森	6,366,649.0	95.5	6,291,129.0	94.7	5,705,050.0	89.1	6,519,571.0	96.6	74,514,917.0	95.3
岩手	18,104,873.0	95.1	18,218,198.0	95.5	16,969,220.0	92.7	18,655,197.0	95.1	216,725,058.0	94.8
宮城	11,744,048.0	97.3	12,010,317.0	97.8	11,042,763.0	94.0	12,285,684.0	96.3	142,124,256.0	97.3
秋田	2,820,498.0	96.3	2,844,491.0	96.0	2,602,758.0	92.7	2,909,028.0	96.2	33,481,032.0	97.9
山形	6,828,337.0	95.4	7,003,252.5	97.3	6,467,845.1	93.1	7,181,575.2	94.4	83,192,285.8	95.5
福島	7,859,328.0	94.0	8,112,464.0	95.5	7,479,150.0	92.6	8,381,978.0	95.1	96,713,225.0	94.1
計	53,723,733.0	95.6	54,479,851.5	96.2	50,266,786.1	92.6	55,933,033.2	95.5	646,750,773.8	95.5

(単位: kg、%)

用途	12月		1月		2月		3月		4~3月計		
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比			
総受託販売乳量	53,723,733.0	95.6	54,479,851.5	96.2	50,266,786.1	92.6	55,933,033.2	95.5	646,750,773.8	95.5	
飲用等向け	飲用牛乳向け	36,662,498.0	96.0	36,322,847.5	96.8	35,908,419.1	94.6	34,668,134.2	92.8	462,503,563.8	96.2
	(うち学乳向け)	2,684,382.4	103.5	2,432,461.5	92.7	3,312,366.0	94.6	2,020,616.8	106.5	32,428,621.5	97.7
	はっ酵乳等向け	4,773,808.0	98.2	4,912,833.0	99.6	5,139,248.0	100.0	5,754,407.0	106.2	63,180,977.0	96.3
乳製品向け	特定乳製品向け	7,881,097.0	88.9	10,292,639.0	93.5	6,635,972.0	85.0	12,381,061.0	101.7	80,394,030.0	89.4
	(うち委託加工向け)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	生クリーム等向け	3,983,085.0	105.4	2,482,822.0	91.0	2,184,757.0	74.5	2,646,954.0	85.1	35,148,920.0	101.0
チーズ向け	417,355.0	83.6	462,820.0	99.1	393,070.0	92.6	476,587.0	93.8	5,453,933.0	94.6	
全乳哺育向け	5,890.0	100.0	5,890.0	100.0	5,320.0	96.6	5,890.0	100.0	69,350.0	99.4	

平成20年度宮城県販売実績

(単位: kg、%)

団体名	販売乳量	前年比	進捗率	未達・超過	前年実績	目標数量
みやぎの	78,518,833	97.8	98.4	△ 1,280,620	80,274,405	79,799,453
全農宮城	24,352,008	97.8	98.4	△ 392,992	24,907,634	24,745,000
宮城酪農	39,253,415	96.0	97.7	△ 904,132	40,871,111	40,157,547
計	142,124,256	97.3	98.2	△ 2,577,744	146,053,150	144,702,000

平成20年度家畜共済事業実績について

NOSA I 宮城 家畜課

平成20年度の家畜共済の引受並びに事故実績について報告いたします。

[引 受]

大家畜について、頭数では前年度より5,227頭減少の124,482頭、共済金額では17億7,173万円減少の181億2,316万円となりました。飼養者の高齢化や後継者不足により廃業、飼料高騰や子牛市場価格の低下による経済的理由等により引受減少となりました。

中家畜について、頭数では前年度より4,217頭増加の12,748頭、共済金額では5,278万円増加の1億8,907万円となりました。

これにより、合計での引受頭数は137,230頭（前年対比99.3%）、共済金額は183億1,223万円（前年対比91.4%）となりました。

家畜共済引受実績は表1のとおりです。

[事 故]

死産事故について、頭数では前年度より616頭減少の5,672頭、支払共済金では6,495万円減少の5億6,867万円となりました。死産事故の多い病傷名等は、乳用牛は関節炎、心不全、腰痠、肥育牛は心不全、肺炎、急性鼓脹症、その他の肉用牛等の成牛は心不全、腰痠、脂肪壊死症、その他の肉用牛等の子牛等は原因不明の胎児の死亡、腸炎、子牛虚弱症候群となっています。家畜共済死産事故実績は表2のとおりです。

病傷事故について、件数では前年度より5,959件減少の57,159件、支払共済金で5,810万円減少の7億2,653万円となりました。病傷事故の多い病傷名等は、乳用牛は急性乳房炎、第四胃左方変位、乳熱、肥育牛は肺炎、気管支炎、肝炎、その他の肉用牛等の成牛は卵巣静止、黄体遺残、難産、その他の肉用牛等の子牛等は腸炎、胃腸炎、肺炎となっています。家畜共済病傷事故実績は表3のとおりです。

[まとめ]

家畜の死産、疾病等による畜産農家の経済的損失は少なくありません。NOSA Iは関係機関、団体と連携し、事故防止と生産性向上の支援に努めております。飼料高騰等で厳しい経営環境にありますが、経営安定のため家畜共済への加入をお勧めし、家畜共済事業実績の報告とします。

(家畜課課長 遠藤 和浩)

[表 1] 家畜共済引受実績

家畜の種類等	平成20年度		平成19年度		増 減	
	頭 数 頭	共済金額 円	頭 数 頭	共済金額 円	頭 数 頭	共済金額 円
乳 牛 の 雌	24,193	2,829,986,063	25,183	3,052,287,690	△ 990	△ 222,301,627
（ 成 乳 牛 ）	16,815	2,564,365,010	17,880	2,776,572,774	△ 1,065	△ 212,207,764
（ 育 成 乳 牛 ）	1,839	133,582,604	1,933	141,033,483	△ 94	△ 7,450,879
（ 乳 用 子 牛 ）	363	15,362,837	323	15,842,647	40	△ 479,810
（ 乳 用 胎 児 ）	5,176	116,675,612	5,047	118,838,786	129	△ 2,163,174
肥 育 牛	25,274	4,096,951,090	29,665	4,970,119,410	△ 4,391	△ 873,168,320
（ 肥 育 用 成 牛 ）	24,741	4,066,281,444	28,676	4,889,774,709	△ 3,935	△ 823,493,265
（ 肥 育 用 子 牛 ）	533	30,669,646	989	80,344,701	△ 456	△ 49,675,055
そ の 他 の 肉 用 牛	74,979	11,182,392,941	74,819	11,858,711,647	160	△ 676,318,706
（その他の肉用成牛）	37,726	7,914,576,125	37,710	8,130,607,274	16	△ 216,031,149
（その他の肉用子牛）	6,049	695,636,795	5,959	720,212,220	90	△ 24,575,425
（その他の肉用胎児）	31,204	2,572,180,021	31,150	3,007,892,153	54	△ 435,712,132
肉 用 種 種 雄 牛	15	5,890,000	15	5,990,000	0	△ 100,000
一 般 馬	21	7,940,000	27	7,785,000	△ 6	155,000
大 家 畜 計	124,482	18,123,160,094	129,709	19,894,893,747	△ 5,227	△ 1,771,733,653
種 豚	1,442	94,168,168	1,205	73,003,000	237	21,165,168
肉 豚	11,306	94,907,900	7,326	63,286,400	3,980	31,621,500
中 家 畜 計	12,748	189,076,068	8,531	136,289,400	4,217	52,786,668
合 計	137,230	18,312,236,162	138,240	20,031,183,147	△ 1,010	△ 1,718,946,985

[表2] 家畜共済死廃事故実績

家畜の種類等	平成20年度		平成19年度		増減	
	頭数 頭	支払共済金額 円	頭数 頭	支払共済金額 円	頭数 頭	支払共済金額 円
乳牛の雌	1,883	244,637,379	2,105	280,303,278	△ 222	△ 35,665,899
(成乳牛)	1,551	234,227,844	1,750	267,545,409	△ 199	△ 33,317,565
(育成乳牛)	30	1,630,124	38	2,198,625	△ 8	△ 568,501
(乳用子牛)	7	306,521	11	599,400	△ 4	△ 292,879
(乳用胎児)	295	8,472,890	306	9,959,844	△ 11	△ 1,486,954
肥育牛	568	76,183,737	976	131,385,443	△ 408	△ 55,201,706
(肥育用成牛)	521	73,848,969	886	124,882,449	△ 365	△ 51,033,480
(肥育用子牛)	47	2,334,768	90	6,502,994	△ 43	△ 4,168,226
その他の肉用牛	1,766	231,400,856	1,639	203,675,088	127	27,725,768
(その他の肉用成牛)	481	106,848,936	383	82,117,292	98	24,731,644
(その他の肉用子牛)	130	14,318,718	117	12,844,441	13	1,474,277
(その他の肉用胎児)	1,155	110,233,202	1,139	108,713,355	16	1,519,847
肉用種雄牛	1	414,787	0	0	1	414,787
一般馬	1	400,000	4	950,000	△ 3	△ 550,000
大家畜計	4,219	553,036,759	4,724	616,313,809	△ 505	△ 63,277,050
種豚	95	5,130,441	101	5,442,441	△ 6	△ 312,000
肉豚	1,358	10,507,354	1,463	11,869,875	△ 105	△ 1,362,521
中家畜計	1,453	15,637,795	1,564	17,312,316	△ 111	△ 1,674,521
合計	5,672	568,674,554	6,288	633,626,125	△ 616	△ 64,951,571

[表3] 家畜共済病傷事故実績

家畜の種類等	平成20年度		平成19年度		増減	
	件数 件	支払共済金額 円	件数 件	支払共済金額 円	件数 件	支払共済金額 円
乳牛の雌	15,693	253,835,458	17,423	273,882,340	△ 1,730	△ 20,046,882
(成乳牛)	14,545	244,635,062	16,128	263,693,942	△ 1,583	△ 19,058,880
(育成乳牛)	442	3,665,620	645	5,293,668	△ 203	△ 1,628,048
(乳用子牛)	51	521,790	50	464,580	1	57,210
(乳用胎児)	655	5,012,986	600	4,430,150	55	582,836
肥育牛	10,410	116,655,500	12,708	142,115,244	△ 2,298	△ 25,459,744
(肥育用成牛)	9,879	111,423,400	11,686	133,701,654	△ 1,807	△ 22,278,254
(肥育用子牛)	531	5,232,100	1,022	8,413,590	△ 491	△ 3,181,490
その他の肉用牛	30,934	355,380,067	32,829	367,763,163	△ 1,895	△ 12,383,096
(その他の肉用成牛)	14,562	136,730,867	16,174	145,123,686	△ 1,612	△ 8,392,819
(その他の肉用子牛)	2,980	37,502,810	2,927	34,680,090	53	2,822,720
(その他の肉用胎児)	13,392	181,146,390	13,728	187,959,387	△ 336	△ 6,812,997
肉用種雄牛	3	55,400	1	11,600	2	43,800
一般馬	7	35,880	15	112,920	△ 8	△ 77,040
大家畜計	57,047	725,962,305	62,976	783,885,267	△ 5,929	△ 57,922,962
種豚	112	567,810	142	745,380	△ 30	△ 177,570
肉豚	112	567,810	142	745,380	△ 30	△ 177,570
中家畜計	112	567,810	142	745,380	△ 30	△ 177,570
合計	57,159	726,530,115	63,118	784,630,647	△ 5,959	△ 58,100,532

平成20年度みやぎ総合家畜市場の現状と今後の見通し

全農宮城県本部畜産部
みやぎ総合家畜市場

平成20年度は米国における金融危機により、世界的な経済不況に陥り、かなりの分野での経済活動が影響を受ける結果となりました。

そんな中、みやぎ総合家畜市場の子牛取引頭数は20,257頭と、前年対比100.1%の実績でありました。この取引頭数は、平成18年度以降3年連続20,000頭台を超える取引頭数で、全国の子牛市場の中でも上位の実績となりました。

しかしながら、表-1に示すように20年度県内出荷JA別の子牛取引頭数の実績を見ると、19年度に比べ地域格差が出てきており、地域によっては生産基盤の維持に苦慮していることがうかがえます。

今後の産地としての基盤づくりに一層の努力が必要と考えます。

一方、20年度の子牛市場取引価格は経済状況の悪化の影響を受け、牛肉の消費が大幅に低迷したために枝肉市況も連動する形となりました。その流れは当然子牛価格の市況にも大きな影響を及ぼし、表-2に示すように一頭当りの年間平均価格は373,147円となり、前年と比べ約110,000円も下回る相場展開となりました。

勿論、このような相場は全国的な流れであり、一部の地域を除きどこの子牛産地も大変な一年となりました。

相場も平均価格は公表されるものの、実情は中値相場が空洞化しており上下の価格差が非常に大きな相場展開でしたが、依然として質・量兼備の資質及び発育の良好な子牛は高値で推移しており、改めて種牛性及び飼養管理の重要性を認識したところであります。

相場低迷時にこそ、さらなる飼養管理の徹底が重要と考えます。

ただ残念ながら、みやぎ総合家畜市場は上場頭数では全国の上位を占めたものの価格的には全国の中でも下位に位置しており、今後躍進に向けた努力が必要だと考えています。

そのために、市場の現状分析を行い問題点を改善する事により、子牛の産地としての基盤を強化して行きたいと考えていますので、更なる皆様方のご指導・ご協力をお願いいたします。

次に、購買者の動向ですが、平均すれば取引頭数の約6割が県内のJA及び個人が購買しており、約4割が県外の購買となっています。この割合は以前から続いていて、平成16年度からの5年間を見ても同様の割合となっています。県外購買者の中でも約半分の頭数が山形県であり、この割合もここ5年間同様です。

従って、残りの2割が山形県以外の県外購買者が購買している事になり、この2割の購買者が微妙に入れ替わっている状況です。

今後とも、新たな購買者の誘致が必要であり、そのためにも種雄牛を絞った特色ある宮城の子牛を生産することが必要です。

最後に、21年度子牛価格動向については、国内外の経済状況や畜産情勢から見れば急激な反発材料は見当たらないが、国際的・国内的な種々の経済対策により時間はかかるものの好転すると推察されます。

平成21年は丑年、さらなる和牛産地としての発展を期すべく努力して行きたいと思っております。

宮城総合家畜市場を開設している全農宮城県本部畜産部といたしましても、和牛繁殖基盤の強化を図りながらよりよい市場開設に向けて努力していきたく思いますので、今後ともよろしくお願いたします。

(畜産部次長 高橋 修)

平成20年度みやぎ総合家畜市場子牛取引実績 (4月~3月)

表-1

JA名	平成20年度	平成19年度	平成18年度	20/19対比	20/18対比
みやぎ登米	5,167	5,100	5,037	101.3	102.6
栗 っ こ	3,824	3,766	3,705	101.5	103.2
みどりの	2,454	2,486	2,608	98.7	94.1
加美よつば	1,770	1,811	1,830	97.7	96.7
みやぎ仙南	1,495	1,448	1,435	103.2	104.2
いわでやま	1,291	1,330	1,322	97.1	97.7
いしのまき	1,246	1,259	1,295	99.0	96.2
南 三 陸	881	918	988	96.0	89.2
古 川	620	619	617	100.2	100.5
あさひな	588	538	526	109.3	111.8
仙 台	383	370	366	103.5	104.6
農 業 公 社	254	313	316	81.2	80.4
みやぎ亘理	142	142	165	100.0	86.1
全農県本部	79	68	105	116.2	75.2
岩出山牧場	41	51	36	80.4	113.9
名取岩沼	22	22	9	100.0	244.4
市場合計	20,257	20,241	20,360	100.1	99.5

子牛市場取引価格の推移 (みやぎ総合家畜市場)

表-2

(税込み)

	取引頭数	平均価格 (雌)	平均価格 (去)	平均価格
平成 8 年	23,042	345,484	428,156	390,740
平成 9 年	21,817	347,141	434,441	393,754
平成10年	21,338	352,636	422,035	390,286
平成11年	20,378	349,917	435,818	394,569
平成12年	19,887	369,419	445,366	411,462
平成13年	19,463	319,028	374,206	349,042
平成14年	19,997	353,875	421,417	389,542
平成15年	19,880	366,206	454,686	413,116
平成16年	19,554	400,684	498,327	453,708
平成17年	19,687	428,231	527,412	481,862
平成18年	20,360	444,669	551,117	502,164
平成19年	20,241	432,274	528,811	485,214
平成20年	20,257	335,570	404,500	373,147

平成21年度肥育牛経営緊急支援強化事業について

社団法人 宮城県畜産協会

1 事業の目的

肉用牛肥育経営については、導入時の素畜価格と飼料費が高水準の時期に肥育された牛が出荷されており、枝肉価格の低迷により、収益性の悪化が続いている。

このため、生産性の向上や飼料自給率の向上の取組を推進することにより、肉用牛肥育経営の安定を図ることを目的としています。

2 事業内容

(1) 奨励金交付対象者

- ① 肉用牛肥育経営安定対策事業（マルキン事業）契約者。
- ② 平成20年度肥育牛経営緊急支援事業（5千円事業）参加者で奨励金の交付を受けた肥育牛の飼養者。
- ③ 平成20年度以降に肥育経営に新規就農した経営者で、マルキン事業に加入する者。
- ④ 上記①から③の対象者が、配合飼料の価格差補てんに係る平成20年度及び平成21年度の数量契約を締結していること。

(2) 奨励金交付に係る取組要件

上記(1)の奨励金交付対象者が、下記①の基礎部分の取組を平成21年4月1日以降新たに行う場合にステップ奨励金を交付します。

また、この取組に加えて、下記②の加算部分の取組を平成21年4月1日以降新たに行う場合にアップ奨励金を交付します。

① 基礎部分：ステップ奨励金 出荷牛1頭当たり10,000円（全品種共通）

下記の取組のうち、いずれか一つに取組む。

- ア 生産性を高める畜舎づくりに資する取組
 - ・換気の改善・防暑又は給餌の改善
 - 例) 送風ファン、細霧冷却ファン、散水器の設置、飼槽の改修や増設
 - ・新しい敷料の導入
 - 例) 古紙やペーパーシュレッダーダストの敷料としての活用
 - ・害虫等の侵入防止又は人・車・資材消毒
 - 例) 防虫ネット、誘虫灯、車両用消毒槽、空気シャワーの設置、牛舎消毒作業の実施
- イ 飼料自給率の向上に資する取組
 - ・エコフィード・農場副産物の活用
 - 例) デンプン粕、パンくず、かんしょつるの給与
 - ・自給飼料の生産・利用
 - 例) 稲WC S、青刈りとうもろこし、牧草、ソルガムの生産・給与

② 加算部分：アップ奨励金出荷牛1頭当たり7,000円（全品種共通）

上記①の取組に加え、下記の取組のうち、いずれか一つに取組む。

- ・水質検査の実施
 - 例) 牛舎の排出水質検査の実施
- ・臭気検査の実施又は消臭剤の使用
 - 例) 臭気検査の実施、消臭剤や脱臭剤の使用
- ・害虫駆除機器の導入
 - 例) 電動噴霧器の導入、専門業者による害虫駆除
- ・たい肥成分分析の実施
 - 例) たい肥成分分析の実施
- ・新規国産牛肉（子牛肉）の需要創出

例) 6ヵ月齢未満の乳用種子牛の出荷、12ヵ月齢以上17ヵ月齢未満の乳用種若齢牛の出荷・早期出荷の実施

例) 肉専用種を25ヵ月齢未満で出荷、交雑種を23ヵ月齢で出荷

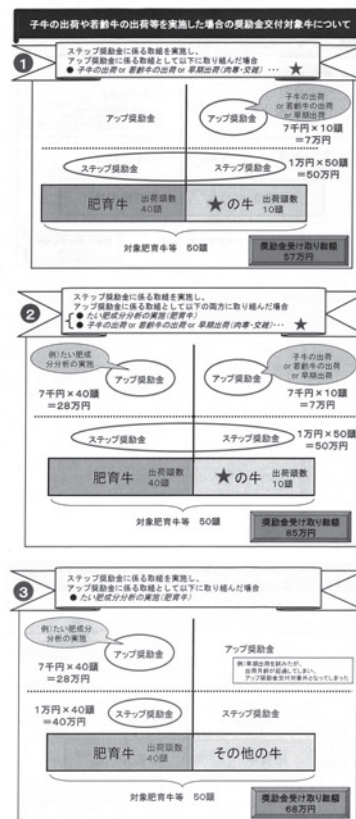
③ 奨励金の交付

マルキン事業の補てん金（肉専用種、交雑種及び乳用種の全国算定値）が発動した場合を条件として、品種区分毎に四半期ごとに交付されます。

なお、交付対象肥育牛は、平成21年4月1日から平成22年3月31日の間に、牛トレサ法に基づいて当該農場から転出届が報告された牛が基本となります。

④ 奨励金交付対象牛の例

子牛の出荷や若齢牛の出荷等を実施した場合の奨励金交付対象牛について



3 事業参加申込の受付期間

平成21年6月30日(火)までです。

4 事業参加の申込に必要な書類

- (1) 肥育牛経営緊急支援強化事業参加申込書
- (2) 牛肉トレーサビリティ法の個人情報の提供に係る同意の委任状
- (3) 配合飼料の価格差補てんに係る平成20年度及び平成21年度の数量契約を確認できる書類
- (4) 環境と調和のとれた農業生産活動規範 点検シート（家畜の飼養・生産）

8 問い合わせ先

宮城県畜産協会経営支援課（電話022-298-8475）または最寄りの農協、酪農協、飼料会社へお問い合わせ願います。

「畜産物の消費拡大運動と地産地消県民運動」

宮城県畜産課

平成18年9月から上昇を続けた飼料価格が沈静化の傾向にあります。世界的経済不況により余談を許さない状況です。この飼料価格高騰は、「平成の畜産危機」と形容され、畜産経営に多大な影響を与えました。この間、関連対策の実施、生産性の向上や自給飼料の増産等のための生産者の創意や努力、さらにはエコフィードなど未利用資源利活用による経営の効率化・省力化への試みも醸成される一方、景気低迷による牛乳・乳製品の需要伸び悩み、枝肉相場や子牛市場価格の低下など生産現場の苦悩は解消されていません。

このような中、畜産物の消費拡大が注目を浴びています。「消費拡大運動」は関係業界・団体をはじめとして積極的な広報、テレビ番組、新聞・雑誌、HP等と情報化社会を背景に幅広く多彩に展開されています。また、地域振興やブランド化推進としても取り組まれ、これらに関係機関等がサポートしています。

さらに、折しも新型インフルエンザの世界的流行が危惧されております。これに関しては、人→人感染が大きな問題となっているところですが、豚由来のインフルエンザであるという点から、豚→人感染であるとの誤解により、結果的には様々な風評被害によって消費動向にも大きな影響を与えかねない状況にもあります。畜産分野では、口蹄疫、BSEあるいは高病原性鳥インフルエンザ等伝染病の発生による社会的影響のほか、乳業会社による食中毒、各偽装事件などを経験しながら、その都度消費への影響を憂慮し生産を修正してきました。風評被害から畜産業を守るためには、消費者に対する正確な情報伝達が必要であると学習し、「食の安全・安心」の概念を後押ししてきました。

一般に牛乳・乳製品を含む畜産物の流通・販売は、他の農産物と比較し、生産者の意向が反映されにくい構図にあります。安全・安心な生産を前提とした正確な関係情報の発信こそが消費拡大運動の大前提となるものと考えられます。

今回、本県における「富県宮城の実現」を推進するための母体組織である富県宮城推進会議において、県産品やサービスなどの内需拡大のため、地産地消運動を宣言・推進していくこととしております。以下に宣言の全文を紹介させていただきます。今後とも「畜産物消費拡大」と合わせ、これら「地産地消」の力を借りながら、各関係機関・個人ができることにしっかり対応いただけますよう尚一層のご理解をお願いします。

「地産地消に取り組む県民運動」に関する宣言 ～県産品やサービス等の内需拡大に向けて～

日本経済は、米国発の世界的な同時不況の影響を受け、景気が急激に落ち込むとともに、大量の雇用調整が行われるなど大変厳しい状況にあり、宮城県の経済・雇用状況も同様の状況に直面しております。

このため、宮城県及び県内各市町村では、現在、国や関係団体等と連携し、雇用の維持・確保や金融支援など、緊急的な課題に全力で取り組んでいるところであります。しかし、宮城県の経済がこの不況を乗り越え、持続的に発展していくためには、地産地消などによる一層の内需拡大が不可欠であり、その経済効果が農林水産業や商業、製造業などの産業全般、更には県民生活にあまねく波及することが必要です。

こうしたことから、富県宮城推進会議では、『「できること」を「できる範囲」で、県内の生産者や商店街、企業などを応援しよう!』を合言葉に、県産品・サービスなどの地産地消に取り組む県民運動を進めていくことを宣言いたします。

平成21年3月

富県宮城推進会議会長 丸 森 伸 吾

(技術補佐 山田 稲生)

平成21年度宮城県総合畜産共進会 開催のお知らせ

社団法人 宮城県畜産協会

農林水産祭参加平成21年度宮城県総合畜産共進会
を下記日程により開催いたすこととなりましたの
で、多数ご来場下さいますようお願い申し上げます。

1 開催日時

1) 肉豚の部

開催日：平成21年9月2日(水)～4日(金)
開催場所：宮城県食肉流通公社(登米市米山町)
枝肉展示及び褒章授与式・・・平成21
年9月4日午前10:30分～

2) 乳用牛・肉用牛の部

開催日：平成21年9月19日(土)
開催場所：みやぎ総合家畜市場(美里町)・・・
一般参観・・・午前9:00～

2 出品予定頭数及び出品区別生年月日範囲

1) 肉豚の部・・・180頭

区分	資 格	生年月日の範囲
第1区	ミヤギノクロスの三元交雑種(LW・D)	H21. 3. 6以降生まれ(180日以内)
第2区	第1区以外の肉豚	H21. 1. 25以降生まれ(220日以内)

2) 乳用牛の部・・・80頭

区分	資 格	生年月日の範囲
第1区	12ヵ月未満	H20. 9. 19以降生まれ
第2区	12ヵ月以上～16ヵ月未満	H20. 5. 19～H20. 9. 18
第3区	16ヵ月以上～20ヵ月未満	H20. 1. 19～H20. 5. 18
第4区	20ヶ月以上	H20. 1. 18以前生まれ
第5区	3才未満	H18. 9. 19以降生まれ
第6区	4才未満	H17. 9. 19～H18. 9. 18
第7区	5才未満	H16. 9. 19～H17. 9. 18
第8区	5才以上	H16. 9. 18以前生まれ

3) 肉用牛の部・・・87頭

区分	資 格	生年月日の範囲
第1区	若雌の1 生後14ヵ月以上～17ヵ月未満	H20. 4. 19～H20. 7. 18 (有種価資格本原又は母が本原登録牛)
第2区	若雌の2 生後17ヵ月以上～20ヵ月未満	H20. 1. 19～H20. 4. 18 (有種価資格本原又は母が本原登録牛)
第3区	経産	(有種価資格本原)
第4区	父系3頭群 生後14ヵ月以上～20ヵ月未満	H20. 1. 19～H20. 7. 18 (3頭1組・有種価資格本原)
第5区	繁殖雌牛群(経産)	(4頭1組・有種価資格本原)

3 付帯行事(案)

消費拡大イベント、抽選会、畜産物・地場産品展
示即売開催など

第45回宮城県同志会 ホルスタイン共進会開催のお知らせ

宮城県ホルスタイン改良同志会

ホルスタイン種の改良、普及、奨励と育成技術の
改善を促進し、併せて会員の親睦を図り本県ホルス
タイン種の改良増殖に資することを目的とした、第
45回宮城県同志会ホルスタイン共進会を下記のと
おり開催することとなりました。

45年目を迎え、ホルスタイン種改良の成果をご覧
いただきたく、多数ご来場下さいますようお願い申
し上げます。

記

1 開催日 平成21年6月23日(火)
午前9時50分開会

2 場 所 みやぎ総合家畜市場(美里町)

3 審査員 北海道 岩見沢市 酪農家
今西 善也 氏

4 出品区分及び出品予定頭数

第1部	生後12ヶ月未満	未經産	12頭
第2部	生後12ヶ月以上～16ヶ月未満	〃	11頭
第3部	生後16ヶ月以上～20ヶ月	〃	11頭
第4部	生後20ヶ月以上	〃	11頭
第5部	生後30ヶ月未満	経産	11頭
第6部	生後30ヶ月以上～36ヶ月未満	〃	11頭
第7部	生後36ヶ月以上～48ヶ月未満	〃	11頭
第8部	生後48ヶ月以上～60ヶ月未満	〃	11頭
第9部	生後60ヶ月以上	〃	11頭
			出品予定頭数合計 100頭

(事務局 社団法人宮城県畜産協会家畜改良課)

〈畜試便り〉

新基幹種雄牛「勝利波」について

宮城県畜産試験場

畜産試験場で繋養している種雄牛「勝利波」(写真1)が、本県の新基幹種雄牛に選抜されました。「勝利波」は、県内肉用牛の改良に広く活用することにより、本県肉用牛の生産推進と農家の経営安定に貢献できる種雄牛であり、今後の優良牛増産に弾みをつけ「仙台牛」の一層の名声を高めるものと期待されています。

【勝利波のプロフィール】

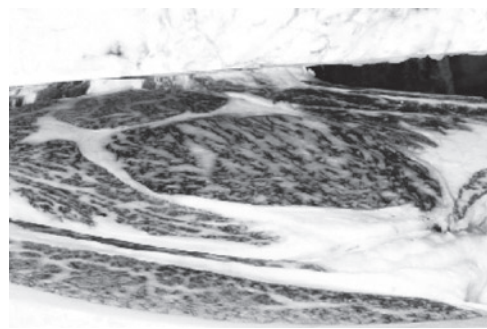
「勝利波」は名牛「茂重波」の能力を色濃く受け継ぐ「茂勝」と、安福の息牛である「安福165の9」を父にもつ母牛「やすいく」の交配より生産されました。

現場後代検定(去勢11頭・雌7頭)の成績は、枝肉重量438kg(去勢:461kg、雌:402kg)、ロース芯面積54cm²、脂肪交雑基準値1.5(BMS No.:5.4)、A4・5率50%となりました(表-1)。この検定成績を基にして算出した育種価指標はB、B、A(左から枝肉重量、ロース芯面積、脂肪交雑。Aが最も良い)と、特に脂肪交雑能力の高さが期待できる他、全国的に注目されている、脂肪の質の良さや旨みといった能力も期待されます。

「勝利波」は平成21年4月から精液の供給が開始され、翌年以降、産子が子牛市場に続々と上場されます。「安福165の9」を母に持つ新規種雄牛として、今後注目が集まると考えられます。



(写真1) 新基幹種雄牛「勝利波」



(写真2) 産子の枝肉写真(BMS No.11、A5)

表-1 現場後代検定成績(検定牛18頭平均)

	①枝肉重量 (kg)	②ロースの太さ (cm ²)	③バラの厚さ (cm)	④脂肪交雑(サシ) (BMS No.)
勝利波	438	54	7.4	5.4
全国平均	421	52	7.5	5.0

①枝肉重量(重い方が良い) ②ロースの太さ(大きい方が良い)
③バラの厚さ(厚い方がよい) ④脂肪交雑(高い方が良い)
全国平均は、平成17年度の検定牛の平均値。

期待される交配

「勝利波」の産子は兵庫血量が多いことから、増体能力に優れている藤良系、気高系の雌牛への交配をおすすめします。特に、第1花園、北国7の8、平茂勝、百合茂、勝忠平等の鹿児島・宮崎からの導入牛との交配がおすすめです。また、肉質を重視する交配として、奥北茂、第2波茂、茂糸桜など本県基幹種雄牛の娘牛との交配も推奨されます。

なお、「茂勝」の娘牛との交配は近交係数が高くなるので注意が必要です。

注) 現場後代検定: 種雄牛の産子を通常の肥育管理の下で肥育し、後代(産子)に伝わる遺伝能力を判定。

(酪農肉牛部肉牛チーム 齊藤 陽介)

〈衛生便り〉

アカバネ病の発生状況と予防対策

大河原家畜保健衛生所

全国の家畜保健衛生所では、例年、牛異常産関連疾病（アカバネ病、アイノウイルス病及びチュウザン病）、イバラキ病及び牛流行熱抗体調査を実施しております。大河原家保管内では、平成20年度に3市町4戸19頭について、6月、8月、9月及び11月、計4回抗体検査を行い、抗体の陽転（疾病侵入の目安）は認められませんでした。県内全域21戸98頭についても、抗体陽転は認められませんでした。

全国における胎内感染型アカバネ病の発生状況は、平成20年8月では、1戸1頭の発生でしたが、平成20年12月には63戸75頭となり、生後感染型を合わせると75戸92頭の発生が報告されています。発生地域では北陸北部、近畿及び中部地方へと流行が拡大しており、本年の夏から秋にかけて東北地方への本病の流行拡大が懸念されます。

本病は、アカバネウイルスを保有したウシヌカカ等の媒介昆虫によって流行し、臨床的には、流産早産、体形異常を伴う死産などの異常産を主徴としています。また、近年、神経症状を主徴とした生後感染型の発生も報告されています。平成21年4月23、24日に開催された全国家畜保健衛生業績発表会では、本病の発生事例が2題発表されました。いずれも胎児感染型アカバネ病で、大阪府の事例では、昨年8月から10月には早死産、10月から2月には体形異常を伴う死産であり、遺伝子検査の結果、平成20年西日本で流行したウイルス株とほぼ一致していたと報告されました。

本病の予防対策として、媒介昆虫が活動を開始する夏前のワクチン接種が基本ですが、大河原家保管内におけるワクチン接種状況は、平成20年特定疾病自衛防疫事業実績によると2市7町5,808頭であり、管内飼養頭数6,979頭（酪農成牛、酪農育成牛及び繁殖和牛の合計：平成21年2月1日調査）の83%でした。

ここ数年、東北地方で本病の発生がないことや、飼料高騰等の影響により経費節減のためワクチン接種を控える傾向がありますが、疾病の発生による経済的損失及び精神的ダメージは計り知れないものがあります。本病による産子数激減のリスクを軽減をするためにもワクチン接種を継続するとともに、未接種農家でもワクチン接種を積極的に実施していただきたいと考えます。併せて、本年度も各家畜保健衛生所では、本病を含む牛異常産関連疾病、イバラキ病及び牛流行熱抗体調査を実施しますので、発生予防のため御協力くださいますようお願いいたします。また、体形異常等を伴う異常産が発生した場合には、最寄りの家畜保健衛生所まで御連絡下さい。

(防疫班 山田 治)

〈農業大学校生の抱負〉

宮城県農業大学校に入学して

宮城県農業大学校畜産学部 2年

肉牛専攻 岡本 健



現在、私の家（大崎市岩出山）では繁殖牛20頭と水稲6haの複合経営で、両親が共働きのため、農作業は祖父母が主体の経営です。

学校では家畜人工授精師や削蹄師などの資格取得を目指して日々取り組んでいます。

さて、私がこの学校に入学してから1年が経ちました。2年生になり、勉強の場を名取の本校から岩出山の畜産学部に移し、宮城県畜産試験場で実習をさせてもらいながら、毎日、畜産について学んでいます。7月からは家畜人工授精師の講習会が始まります。覚えることが多く、取得するのが大変な資格ではありますが、学科や実習に積極的に取り組み、必死に勉強して資格取得したいと思っています。

現在、子牛の市場価格が下落し、畜産農家の経営に多大な影響を与えています。以前よりも血統だけではなく、質も求められるようになってきました。また原油高騰によるバイオエタノールや輸出国の干ばつによる濃厚飼料や乾草の高騰により、ますます畜産農家にとって厳しい状況となってきています。我が家でもその影響は顕著であり、質の向上と低コスト化を目指しながら、いい方法はないかと模索する毎日です。

この学校を卒業した後は自宅に就農し、祖父母に師事し、ゆくゆくは経営を引き継いでいきたいと考えています。就農後の目標は現在の質を維持しながら、低コスト化を目指し、その中で徐々に規模拡大していきたいと考えています。

最後に私がこの学校を卒業するまで、早くも1年を切りました。私は畜産の知識に関してまだまだ知らない事も多く、経験もほとんどありません。だからこそ残りわずかな学生生活から多くの知識や技術を身につけ、就農した時に生かしていきたいです。

NAR 地方競馬全国協会 岩手競馬（盛岡・水沢開催）6・7月 開催予定表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
6月	盛岡	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
7月	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	

※開催期間中の重賞レース

- ・6/1(月)第29回 岩手ダービーダイヤモンドカップ
- ・6/21(日)第37回 一條記念みちのく大賞賞
- ・7/5(日)第41回 岩鷲賞
- ・7/12(日) 第10回 オーバルカップ
- ・7/19(日) 第31回 せきれい賞
- ・7/20(月) 第13回 マーキュリーカップ
- ・7/26(日) 第23回 ひまわり賞

〈New face〉

東部家畜保健衛生所
大野 遼子

はじめまして、平成21年4月より宮城県東部家畜保健衛生所に配属となりました大野遼子と申します。出身は坊ちゃんでお知られている愛媛県松山市です。高校卒業後に高松、相模原、十和田と北へ北へと移住して東北に魅せられました。

そして、今年の3月に北里大学獣医畜産学部獣医学科を卒業して、4月に宮城県にいたりしました。

大学では獣医衛生学研究室に所属し、家畜の細菌感染症の予防衛生というテーマのもとで、主に研究室に送られてくる検体から菌分離、同定を行っていました。その中で卒業研究として、伝搬経路などの解明を目的とし*Rhodococcus equi*病原性プラスミドの馬、豚、ニホンイノシシにおける分子疫学調査を行ってきました。

家畜保健衛生所では放牧衛生、獣医事、動物用医薬品に関する仕事を担当させていただいています。仕事を始めて1ヶ月、すべてのことが初めてで戸惑いを感じる事の多い日々を過ごしています。しかし、周りの方々が丁寧に指導して下さるおかげで、少しずつですが職場にも慣れてきたような気がしています。一日でも早く一人前になれるよう、教えていただいたことは忘れずに吸収できるように心がけながら仕事に励みたいと思います。

まずはこちらの環境や言葉などに慣れ、現場で経験を積み重ねていくことで知識や技術を習得していきたいと思っています。色々とお迷惑をかけると思いますが、宮城県の畜産に少しでも貢献できるよう頑張りますので、今後ともご指導のほどよろしくお願ひ致します。

〈New face〉

NOSA I 宮城家畜診療研修所
菊池 朋子

はじめまして。平成21年度4月より宮城県農業共済組合連合会に獣医師として採用となりました、菊池朋子と申します。出身は神奈川県横浜市、出身大学は日本大学です。

最初に獣医師を志したのは小学4年生の頃で、野生動物

を扱ったテレビ番組の影響で「ライオンの獣医さん」になりたいと思ったのが始まりでした。残念ながら6年間の大学生活の中でライオンと触れ合う機会は一度もありませんでしたが、そのかわりに牛と接する機会が多々あり、その魅力に引き込まれて牛の獣医師を目指すこととなりました。

大動物臨床に初めて興味を持ったのは大学3年次、2週間の酪農実習に行った際に「牛ってかわいいな、牛を育てるのが面白いな」と感じたのがきっかけでした。その後、宮城県をはじめ様々な地域で大動物の臨床実習に参加し、大動物臨床に対する憧れがより強いものとなりました。臨床実習では畜産の楽しい面ばかりではなく辛く厳しい場面にも遭遇し、自分に大動物獣医師の仕事が務まるだろうかとお悩んだこともありました。それでもやっぱり牛が好きだったので、実習期間中にお会いした農家の方々、そして土地そのものの温かく優しい雰囲気が印象的だった宮城県にNOSA Iの獣医師職員として就職を希望しました。

NOSA Iでの新人研修が始まってからひと月程になりますが、牛の診療のみならず飼料の種類や和牛の系統、ロープワークに至るまで、学ばなければならないことが如何にたくさんあるかを痛感しています。毎日少しずつでも着実に技術や知識を身につけ、一日も早く農家の方々のお役に立てるよう頑張ってお参りますので、ご指導よろしくお願ひいたします。